



平成 17 年 8 月 3 日

各 位

会 社 名 株式会社グッドマン
代表者名 代表取締役社長 山本 明
(JASDAQ ・ コード 7535)
問合せ先
役職・氏名 執行役員 経営企画室長
余語 岳仁
電話 0 5 2 - 7 7 4 - 4 3 5 0

平成 17 年 6 月期通期 (連結 ・ 単独) の業績予想の修正に関するお知らせ。

平成17年6月期(平成16年7月1日～平成17年6月30日)の業績予想について、平成17年2月21日付当社「平成17年6月期 中間決算短信(連結)」及び同日付当社「平成17年6月期 個別中間財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 通期業績予想の修正 (平成16年7月1日～平成17年6月30日)

(1) 連結

(単位 : 百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回予想 (A)	16,797	1,562	644
今回修正 (B)	16,100	1,150	150
増減額 (B - A)	697	412	494
増 減 率	4.1%	26.4%	76.7%

(2) 個別

(単位 : 百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回予想 (A)	16,218	2,187	1,041
今回修正 (B)	15,600	1,950	700
増減額 (B - A)	618	237	341
増 減 率	3.8	10.8	32.8

(3) 修正理由

(売上高)

日本のステント市場におきましては、競合他社製品でありますドラッグエリューティングステントが非常に大きな占有率をもって浸透しており、「デュラフレックス」の販売に対して影響を及ぼしております。当社グループでは、影響を最小限に食い止めるべく営業活動に注力いたしましたが、中間決算発表時において見直しました計画に対しても若干未達となりました。

また、カッティング・バルーンにつきましても、ドラッグエリューティングステントが日本市場に浸透した間接的な影響により、計画に対して若干未達となりました。

加えて、従来、取り扱っておりました他社仕入製品の血管内超音波プローブを、別会社製のバーチャル・ヒストロジー対応（従来白黒であった診断画像を自動的に組織性状により4色に色分けして表示する技術）の次世代製品に移行するにあたり、移行期間中の一時的な売上減少が当初の想定以上となりました。これにより、連結売上高予想は、161億円（前回予想比4.1%減）となりました。

(経常利益)

当社グループの中長期的な収益の柱として期待しておりますOCT診断装置につきましては、平成17年5月に臨床試験の登録が完了し、今後は、厚生労働省の承認審査を経て、循環器分野における、世界初のOCT技術の早期実用化を目指してまいります。

また、ドラッグエリューティングステントにつきましても人体での有効性試験の準備段階にあり、中間決算発表時の治験費用予想を上回ることとなりました。

上記のとおり、売上減少による売上総利益の減少に加え、研究開発費の増加の影響により、連結経常利益は11億5千万円（前回予想比26.4%減）となりました。

(当期純利益)

下期において、海外投資先のうち1社が買収されたことにより投資簿価3億1千6百万円を全額減損処理いたしました。また、新規製品投入にともない旧型製品を8千1百万円廃棄処理いたしました。これにより、連結当期純利益は、1億5千万円（前回予想比76.7%減）となりました。

以上のとおり、現在までに明らかになった市場動向および自社の状況を勘案し、通期の業績予想を修正いたしました。

(注)業績予想につきましては、本資料作成日現在で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上